

見て、感じて、
沖縄芸能って楽しい！



沖縄芸能 DAYS

検索

問
合
先

公益財団法人沖縄県文化振興会
〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター6階605
098-987-0926(土日・祝祭日を除く平日9時～17時)
info@okicul-pr.jp <https://okinawageinodays.com>

写真提供:国立劇場おきなわ

南の島にちりばめられた
麗しき芸を巡る



沖縄には歌があります。歌とともに育まれてきた、踊り、音楽、芝居があります。大小160の島々からなる麗しき南国リゾートは、一步足を踏み入れると、芸能王国の横顔をのぞかせます。

古の王朝時代から沖縄の人々は、青い海を眺めながら詩を作り、砂浜を歩いて歌を歌い、照りつける太陽の下で踊り、三線を奏でてきたのです。

南の島の日常に息づく、そんな芸能の数々を、ゆっくりとご覧下さい。



2019年は
組踊上演300周年

世界を魅了する 王朝の舞と調べ



ユネスコ無形文化遺産に登録された組踊、
古典から創作まで幅広い琉球舞踊、
華やかな舞台を音で彩る三線音楽。
琉球王朝時代に花開いた宮廷文化が
今もなお受け継がれています。



組踊

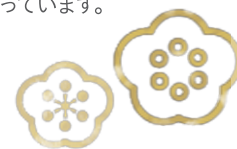
琉球王朝時代の18世紀初めに、
玉城朝薫(たまぐすくちょうくん)という
人物が今でいうプロデューサーと
なって、中国の使者(冊封使)を歓待
するために創作した歌舞劇です。琉
球の歴史や古くからの言い伝えをも
とに、これまで70点余りの作品が編
み出されてきました。組踊は能楽や
歌舞伎などと並ぶ国指定重要無形
文化財であり、ユネスコの無形文化
遺産にも登録。日本を代表する古典
芸能として、世界各国から訪れる
人々をもてなしています。

琉球舞踊

組踊が完成するはるか以前から、
琉球王朝の宮廷芸能として発展し
てきました。紅型の衣裳と優雅な身
のこなしで観客を魅了する女踊をは
じめ、若衆踊、老人踊、二才(にー
せー)踊と呼ばれる踊りの種類があ
ります。明治時代以降は民間にも広
まり、伝統的な古典舞踊が受け継が
れる一方で、庶民のくらしや感情を生
き生きと表現した雑踊り、戦後に誕
生した創作舞踊が、琉球舞踊の新し
いスタイルとして確立しました。

古典音楽

沖縄の代表的な音楽といえば、全
国でも親しみ深い歌三線。8・8・8・
6音の言葉をつなぐ「琉歌」のリズム
で歌詞をつくり、「工工四(くんくん
しー)」と呼ばれる独特の楽譜にのせ
て、メロディーを奏でます。組踊や琉
球舞踊の舞台には、歌三線のほか
箏、笛、胡弓、太鼓などの伴奏楽器も
登場します。沖縄の芸能には欠かせ
ない、大きな役割を担っています。



大衆に愛された 芸能文化が脈々と

先祖崇拝に即した旧盆行事のエイサー、明治期以降に広まったウチナーグチによる沖縄芝居。時代を超えて親しまれている芸能文化には、庶民の生活と感情が生き生きと表現されています。



✿ エイサー

沖縄の旧盆の最終日(旧暦7月15日)に行なわれる、先祖供養のための念仏踊りです。歌三線の調べにのって、太鼓をたたいて踊りながら、集落内を練り歩きます。現在は青年会が中心となって取り組んでおり、地域によって踊りや衣装にもさまざまな特徴が見られます。

✿ 沖縄芝居

沖縄芝居が誕生したのは明治時代の中頃です。庶民のくらしや悲恋を描き、セリフを歌で表現した「歌劇」と、時代劇を中心に、日常の方言に近いセリフで演じる「方言せりふ劇」の2種類があります。現在も大衆演劇として多くの人に親しまれ、各劇団が「母の日」に行なう特別公演は、毎年の恒例行事になっています。



✿ 獅子舞

沖縄では古くから、獅子は邪気を払うものとされ、豊年祭などで獅子舞が演じられてきました。デイト製の獅子頭や芭蕉の繊維でできた胴体は、沖縄特有のもの。舞い踊る姿も動物的でダイナミックです。現在も県内各地にたくさんの獅子舞が伝承されています。

✿ 民謡

人々の生活の中から生まれた民謡は、島や地域ごとにさまざまな歌が伝わり、庶民の間で歌い継がれてきました。歌詞にもその土地ならではの方言が入って、独特の空気感や匂いまで感じられます。明治期以降になると、三線の伴奏にのせて歌うスタイルが主流になり、今なお盛んに新たな歌が創られています。

新 世 能

しげいのう

組踊やエイサーにも、
新たな潮流が生まれています。
最先端の技術を取り入れながら、
見る人の心を揺さぶるような、
新作・創作が次々と誕生しています。

時代の風を感じる

ニューウェーブ



✿ 創作組踊

音楽や演出方法に趣向を凝らし、
新しい地平を開いた組踊のスタイル
です。セリフ・踊り・音楽の3つの要素
で構成された組踊の基本ルールは
踏まえつつ、作品の題材は自由。子ども
でもでも親しみやすい身近なテーマから
歴史ファンタジーまで、意欲的な
作品が次々と生まれています。

✿ 創作エイサー

伝統的なエイサーをベースに、振
り付けや音楽を自由にアレンジした
新しいスタイルのエイサーです。県内
にとどまらず、県外・海外にも創作エ
イサーの愛好団体があり、毎年開か
れる「世界エイサー大会」には多くの
チームが参加。一つのエンターテイン
メントとして沖縄芸能を発信して
います。

✿ 新沖縄芸能

古典のみならず新作も数多く生
まれている沖縄芝居。“ウチナーヤマ
トウグチ”といわれる沖縄風大和言
葉でセリフを構成したコメディや、
古典音楽とバイオリンのセッション
が楽しめる歌舞劇や、現代音楽とダ
ンスによる演出を加えた「現代版組
踊」など、年齢を問わず初心者でも
楽しめる作品が増えています。

主役は地元の中高生。現代版組踊の魅力

2000年初演の「肝高の阿麻和利(きむたかのあまわり)」を機に、新たな沖縄芸能として定着した現代版組踊。大きな特徴は、各作品の舞台となる地域の子どもたちが中心となって運営していることです。役者として舞台に立つ者もいれば、音楽やダンスで会場を盛り上げる者、あるいは裏方に徹する者もいます。こうした舞台経験は子どもたちにとって、故郷の誇りと魅力を自発的に発見する、生きた教材になっています。

音楽織物

おの り が も の

沖縄芸能を支える 数々の名脇役

独特の音階を奏でる三線などの楽器や、
紅型をはじめとする伝統衣装は、
沖縄芸能を構成する大切な要素です。

三線・音楽

琉球王朝時代から戦前・戦後を通じて、この島の歴史を見続けてきた三線は、沖縄の人にとって心の宝物のような存在です。木製の胴の両面にニシキヘビの皮を張り、棹にわたした3本の弦を、水牛などの角でできた爪ではじいて演奏します。エイサーでおなじみの締め太鼓や横笛なども、沖縄音楽特有のリズムや情感を表すのに欠かせない楽器です。

紅型(びんがた)

沖縄の代表的な染色技法です。本土でもなじみ深い「型絵染」の工程で、どんなに複雑な模様も一枚の型紙だけで染め上げる点が大きな特徴です。琉球王朝時代は士族階級以上だけが着用を許されたため、色鮮やかで繊細な絵柄の着物が数多く作られました。最近では琉装や和服以外にも、Tシャツ、バッグなど身近なものにも使用され親しまれています。



撮影協力：城間びんがた工房

芭蕉布(ばしょうふ)

バナナ的一种、イトバショウの繊維を糸に用いた沖縄独特の染織物です。軽くてさらりとした生地、風合いは、蒸し暑い南国の気候風土に適し、王族から農民まで古くから日常の着物として愛用されていました。雑踊りや沖縄芝居の舞台に芭蕉布を着た役柄の人物が立つと、それだけで「沖縄らしさ」が引き立ち、臨場感が一層高まります。



写真提供：Okinawa Convention & Visitors Bureau

紼(かすり)

紼とは、所々に「かすった」ような模様を織り込んだ織物のこと。あらかじめ染色した糸を縦と横に組み合わせながら、決められた図柄に織り上げていきます。紼は昔から日本全国で作られてきましたが、もともとは琉球の紼がルーツになったといわれています。紼製品は現在でも人気が高く、観光みやげとしても好まれています。



撮影協力：琉球紼事業協同組合

くるちの杜100年プロジェクトin読谷

宮沢和史さんが発起人となって、2012年から読谷村で始めた「くるちの杜100年プロジェクト」。くるちとは三線の棹の原材料となる黒木のことで、材質が硬くて反りや狂いが生じにくく、最良の棹材といわれています。しかし県内ではほとんど採取できず、海外からの輸入に頼っているのが現状です。同プロジェクトでは100年後に県産黒木で三線を作ること为目标に、毎年植樹を続けていく計画です。